

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第6号

2015年1月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人 京都府病院協会 《発行人》野口雅滋 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東桐尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6104 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>

新春のご挨拶

一般社団法人京都府病院協会会長 野口雅滋



新年明けましておめでとうございます。

2015年になり、団塊の世代の方が全員65歳以上になられました。全員75歳以上になられる2025年まで丁度10年の節目の年を迎えました。

昨年はとても悲しい出来事がありました。府病協の前会長であられた梶田先生が5月19日に急逝されました。その前の月の府病協総会には元氣に出席され、宴会でお酒も飲んでおられたので、会員一同その死に大変驚きました。梶田先生は京都私立病院協会との合同会議を始められ、私病協・府病協が一つの病院団体として活動していく素地を作られました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一昨年より取り組んできました、京都府病院協会の法人化が昨年7月1日に承認されました。京都府病院協会も晴れて一般社団法人となり、京都私立病院協会と一致団結して現在の難局に立ち向かう準備が整いました。初めにも書きましたように、2025年には団塊の世代の人が全員75歳以上になられます。75歳以上になると何らかの医療・介護が必要になる可能性が高くなります。病院医療もその需要の増大に備えておくべきです。ところが現在その対応策として推進されている、病床機能報告制度や地域医療ビジョンを見ていると、医療費適正化の口実のもと入院医療の縮小が検討されているように思われてなりません。総人口が減っていくのは事実ですが、2026年に75歳以上の人口が2,200万人を超え、その後も増え続けて2050年代に2,400万人で最大になり、2060年でも、まだ2,300万人を超えていることも事実です。京都府病院協会の会員病院には急性期医療を担っている病院が多くあります。20

25年以降に、急性期医療を必要とする75歳以上の人口が増大するだけでなく、心筋梗塞やがんなど嘗ては命を落としていた急性期疾患が治る病気になってきたため、一人の高齢者が複数回急性期医療での加療を必要とするようになってきています。このように、数の増加と複数回受診で激増する急性期疾患の需要への対応も非常に大切です。回復期、慢性期だけでなく、高度や一般などの急性期医療もどのように京都府民に提供していくのかを病院団体として「協議の場」で明確に意見を述べていく必要があります。

最後に、会員病院の皆様方にとって2015年が実り多い1年であり、会員諸病院の先生方のご健勝を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。



謹賀新年

平成二十七年元旦

会長 野口 雅 滋
(京都桂病院)

副会長 依田 建 吾
(京都第一赤十字病院)

副会長 三 木 真 司
(三菱京都病院)

理事 香 川 恵 造
(福知山市民病院)

理事 北 堅 吉
(日本バプテスト病院)

理事 日下部 虎 夫
(京都第二赤十字病院)

理事 杉 山 博
(宇多野病院)

理事 辰 巳 哲 也
(公立南丹病院)

理事 内 藤 和 世
(京都市立病院)

理事 中 嶋 俊 彰
(済生会京都府病院)

理事 中 村 孝 志
(京都医療センター)

理事 能 見 伸 八 郎
(京都鞍馬口医療センター)

理事 宮野前 健
(南京都病院)

理事 山 下 俊 幸
(府立洛南病院)

監事 中 島 徳 郎

監事 齋 藤 信 雄

平成26年度 救急医療功労者 厚生労働大臣表彰

能見伸八郎氏が受賞

(京都鞍馬口医療センター院長)

本会理事の能見伸八郎氏(京都鞍馬口医療センター院長)が平成26年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞されました。

能見氏は、本会役員在任中、京都府、京都市における救急医療関連の審議会委員として活躍されるなど、永年にわたり、京都における救急医療体制の構築ならびに発展に多大な貢献をされたことにより受賞されたものです。先生のご受賞を心よりお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



平成26年度 京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰

本会から個人3名、3団体が受賞

平成26年度京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰の表彰式が11月13日(木)に執り行われ、京都府病院協会からは保健医療・救急医療の各部門において、個人3

名、3団体が受賞されました。受賞者は左記のとおり。先生方の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

《保健医療功労》

個人の部

高倉 賢 二氏
(京都医療センター)

団体の部

京都大原記念病院

《救急医療功労》

個人の部

三木 真司 氏
(三菱京都病院)

団体の部

亀岡市民病院

◎ 他団体推薦

《保健医療功労》

個人の部

富田 哲也 氏
(富田病院)

《救急医療功労》

団体の部

洛西シミズ病院



平成27年 新春講演会・懇親会を開催

平成27年の新春講演会・懇親会を、1月8日(木)、ホテル日航プリンス京都にて開催しました。当日は新春講演会として、京都大学東南アジア研究所の松林公蔵教授をお招きし、「Ageing in Place: フィールド医学の現場から」と題してご講演いただきました。講演会終了後は会場を移して懇親会を開催しました。なお、当日は会員病院から約60名の方々にご出席いただきました。

講演会に引き続き開催した懇親会では、依田副会長の司会のもと

進行。冒頭、野口会長の挨拶に続き、公務が多忙の中、ご臨席いただいた京都府健康福祉部長、京都市保健福祉局医務監、京都府医師会長、京都私立病院協会会長、京都府保険医療協合理事長より祝辞をいただきました。その後、阿部光幸顧問の乾杯のご発声により開宴、懇親会では終始和やかな雰囲気が進み、盛会裏に閉会となりました。

京都府病院協会 事務所の開設

京都府病院協会では、平成26年10月1日に事務所を開設しました。週3回、午前10時～午後2時まで、職員が常駐しています。

＜連絡先＞ 〒604-8585
京都市中京区西ノ京東梅尾町 6
京都府医師会館 6 F 一般社団法人京都府病院協会
TEL: 075-354-6104 FAX: 075-354-6074
Mail: kpha.office@gmail.com

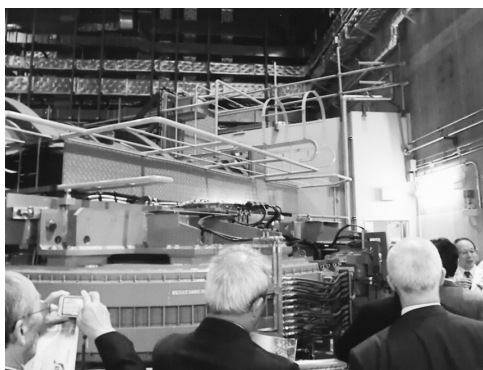
福井県立病院 陽子線がん治療センターを見学

各地の優れた病院を訪問し、その先端技術や施設を見学、病院運営などについて意見交換をする機会として例年開催している「病院長研修」を、今年度も11月28日(金)～29日(土)にかけて、福井県福井市の福井県立病院を見学しました。今回の参加者は野口会長以下15名で、本会顧問の阿部光幸先生や監事の齋藤信雄先生にもご参加いただきました。

今回見学した福井県立病院は、福井県福井市の中心部に位置する961床の急性期総合病院で、救急医療や周産期医療、災害医療等の政策医療を担う一方で、がん医療センターやこころの医療セン

ターを設置する等5疾病への対応も積極的に取り組んでおられ、地域の中核病院として地域住民の健康・生命を守っておられる病院です。見学当日は村北病院長より病院の概要について説明を受けた後、約2時間にわたり施設を見学させていただきました。

特に、福井県立病院は、がん治療における先進技術「陽子線治療センター」を有する病院としても有名で、2011年、日本海側初となる陽子線治療施設の運用を開始されました。陽子線治療センターは、延床面積5,900㎡、地下1階・地上3階の建物となっており、特徴的なのが、積層原体照射システムで、従来の照射に比べて不要な線量を軽減でき、複雑な形状をしたがんの治療にも高い精度で行うことが可能となるということです。また、より精度の高い位置決めを行うための「CT自動位置決めシステム」も導入されており、より高精度な治療が行われております。治療患者数も年々増えており、平成26年12月現在で、583名(県内:288名、県外:295名)の患者さんが治療を開始しており、



部位別でみると前立腺、肝臓、肺、頭頸部が主な治療部位となっております。施設見学では治療室ならびに回転ガントリーという大きな機械を見学させていただきましたが、山本センター長による詳しい説明を受け、参加者は熱心に耳を傾け、施設を見学していました。

今回の研修では、先進技術を有し総合的かつ高度な医療を県民に提供してきた地域の中核病院として、一見の価値ある病院でした。また、人材育成という観点においても積極的に取り組みをされる等、今後の病院経営にとって非常に有意義な見学となりました。

京都府病院協会 メーリングリストの 登録について

京都府病院協会では、会員病院間でのメーリングリストを開設します。このメーリングリストは会員病院間の情報交換、情報共有、会員の円滑な交流を目的として運営するもので、病院協会事務局からのお知らせ等の情報伝達としても活用していきます。

登録ご希望の先生は、以下の項目を京都府病院協会:事務局まで、メール(kpha.office@gmail.com)にてお知らせください。

- ① 病院名 ② 役職 ③ 氏名
- ④ メールアドレス

第50回

京都病院学会について

京都病院学会は京都府内の病院の医師・看護師をはじめ、様々な職種が日頃の臨床、研究の成果を発表する場として、昭和40年に発足しました。それ以降、毎年その内容と規模を充実させながら回を重ね、今年で50回目を迎えます。

本学会は、京都府病院協会と京都私立病院協会が共催で実施するもので、参加者も両会に加盟する京都府の病院・診療所に所属するすべての職員が対象となります。

今回の学会は京都府病院協会が担当となり、6月14日(日)、京都市中京区にある池坊短期大学にて開催を予定していますので、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

京都病院学会

[URL] <http://khosp.or.jp/society/>

病床機能報告制度における集計結果

～厚生労働省が速報値を公表～

厚生労働省は12月25日の「地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会」に病床機能報告制度における集計対象の速報結果を示しました。厚生労働省によると「病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況」の集計は、11月末までに回答のあった病院6,808施設、有床診療5,395施設が対象となっています。

速報値では、7月1日時点では、急性期と回答したのが、一般病床で43万7,613床、療養病床1,554床の合計43万9,167床で全体の47.0%を占めました。

高度急性期病床は15万3,052床で16.4%。慢性期病床は、一般病床からの回答が6万3,911床、療養病床からは19万3,046床で合計25万6,957床、27.5%で急性期に次いで多い結果となりました。最も少なかったのは回復期病床で8万5,300床でした。さらに、6年後の医療機能の予定別病床数では、急性期病床は41万6,877床、慢性期病床は24万9,056床と、今年7月1日時点よりも若干減りますが、高度急性期は15万9,689床に、回復期が11万731床とそれぞれ増加しました。

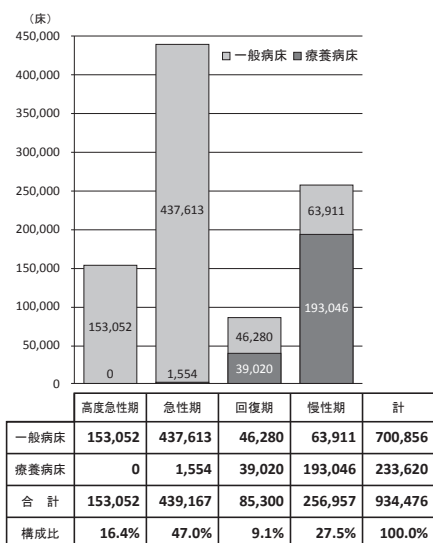
第6回地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会	参考資料
平成26年12月25日	5

病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【速報値】

○以下の集計は、12月19日時点でデータクリーニングが完了し、集計可能となった医療機関におけるデータを集計した速報値である。

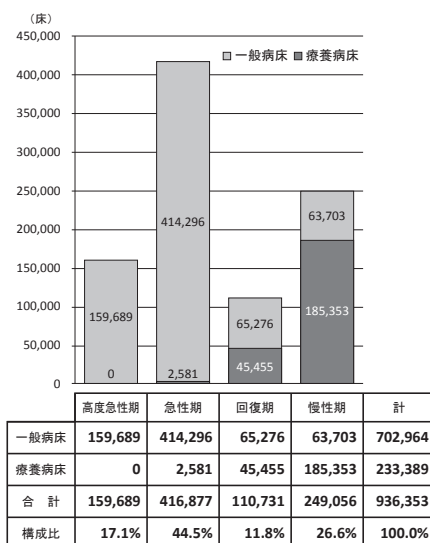
- 報告対象となる病院7,432施設、有床診療所8,117施設のうち、11月30日までに病院6,808施設(91.6%)、有床診療所5,395施設(66.5%)が報告済み
- このうち12月19日時点でデータクリーニングが完了した病院5,181施設(69.7%)、有床診療所3,774施設(46.5%)のデータを集計した。
- 集計対象施設における許可病床数合計は、939,462床
(cf. 医療施設調査(動態)における平成26年6月末時点の許可病床(一般、療養)の総数は1,339,640床)
- 今回の集計対象施設についても追加のデータ修正等が生じる可能性があり、集計内容は変動し得る。

《2014(平成26)年7月1日時点の医療機能別の病床数(許可病床)》



(注) 集計対象施設のうち、2014年7月1日時点の病床の機能について未回答の病床が4,986床分あり、上表には含めていない。

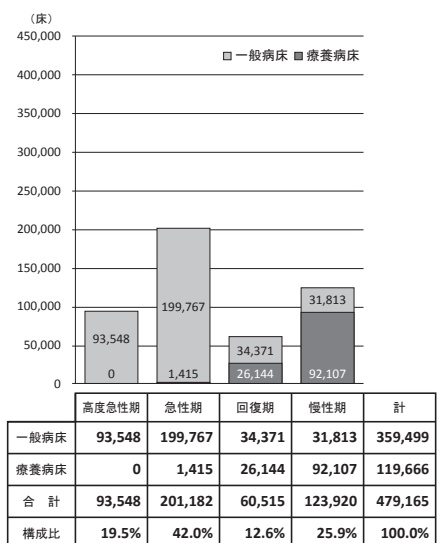
《6年が経過した日における医療機能の予定別の病床数(許可病床)》



(注) 集計対象施設のうち、6年が経過した日における病床の機能について未回答の病床が3,109床分あり、上表には含めていない。

《2025(平成37)年7月1日時点の医療機能の予定別の病床数(許可病床)》

(注) 本項目は、任意の報告項目であり、報告のあった病床分のみ、下表に記載している。



出典：第6回地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会資料より